内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2004年2月）

◎内海事務総局長から

ITUが国連のCEB会議で、議論の中心になったのは、今回が初めてでしょう。ジュネーブの国際社会でもITUが今ほど注目を浴びていることは過去に例がありません。

ジュネーブに来た当時は、社交の場に出ても、相手をしてくれる人がいなく、つらかったものですが、今では、大使たちが、皆、話し掛けに来てくれます。情報通信技術が世の中を根本的に変えているのですから、当たり前のことかもしれません。縮減された予算の中で、時代のリーダーになるべく努力は続きます。

◎４月の事務総局長の主な動向

4月2日　国連高級幹部会合（UN CEB会合、ウィーン）

アナン国連事務総長を議長として、国連専門機関の長および国連本部幹部で構成される国連高級幹部会合がウィーン国連事務所で開催されました。同会合は、年に2回開催され、国連が直面している重要問題を議論しています。2004年の国連の最重要課題は、“デジタル・デバイドの解消”と“国境を越えた罪悪”です。UNESCO、WHO、UNDPなどのトップが、これらの重要課題にどのように取り組むべきか、互いの国際機関はどう協力すべきかなど意見を交換します。“国境を越えた罪悪”には、ITUが取り組んでいるネットワークセキュリティやスパム対策で関連しますし、“デジタル・デバイドの解消”はまさにITUの使命でもあります。そのため、今回のCEB会合では、私が報告したITU活動報告が議論のベースとなりました。

昨年のWSISジュネーブフェーズは、各国のリーダーが集まり、情報社会の共通ビジョンと具体的な行動計画をまとめられ大成功だったこと、また、WSISチュニジアフェーズに向けて各国際機関が連携して活動していくことが、CEB会合で総括されました。

4月5日　ITU理事会の準備作業（ITU、ジュネーブ）

今年6月9日から18日にかけてITU理事会が開催されます。一昨年の全権委員会議、昨年の理事会での議論に基づいて、事務局からは、ITUの活動状況、予算の執行状況、テレコムイベントの活動状況などの文書を提出するとともに、インターネットの管理、セキュリティ、デジタル・デバイド対策、WSISチュニジアフェーズなど、今後のITUの活動方針について理事会から指針を受けるための準備も進めています。

昨年のWSIS開催が契機となって、インターネットの管理、デジタル・デバイド解消のための基金問題は、各国政府および国際機関の関心を集めているところであり、理事会では、ITUがどのようにこれらの議論を国際的にリードしていくべきなのかなど、情報社会に向けたITUの活動指針について議論されることを期待しています。

4月21日　ITUテレコムアジア準備作業（ITU、ジュネーブ）

今年9月7日から11日にかけて、釜山（韓国）においてITUテレコムアジアを開催します。このテレコムアジアの開催地選定では、韓国のほかにタイも名乗りを上げていて首相、大統領レベルでの招致合戦が繰り広げられましたが、出展企業・政府などの意見を考慮して韓国に決まりました。韓国政府は、国内組織委員会を設置して国を挙げて準備を進めています。

昨年のワールドテレコムでは、日本、中国、韓国をはじめアジア各国の展示ブースが注目を集めていました。今回のITUテレコムアジアにおいても、これらのアジアのパワーが世界に誇示されることを期待しています。

4月21日　WSISビューロー会合（ジュネーブ）

6月末にチュニジアでWSIS準備会合を開催しますが、この準備会合では、1) 2005年のWSISで焦点を当てて検討すべき情報社会のテーマは何か、2) そのために、テーマ会合や地域準備会合などどのような準備プロセスとするのか、を議論することとなっています。今回ビューローでは、準備会合で、この2つのテーマが効率よく十分に議論できるための方策を検討し、各提案文書の募集方法、事前の非公式会合の開催などを決めました。

また、ビューローでは、WSIS準備会合議長を早急に選出すべきと認識していますが、各国の思惑が絡み合い、もう少し時間がかかるようです。6月初旬には、議長が決定する予定です。

“ウィーン国連ビル”：撮影、内海善雄